

番号	3 - 39	申請者	院長 上山 秀嗣
<p>【審査申請課題】 気管切開・人工呼吸器装着中の神経筋疾患患者における「ATボイスアシスト」の有効性に関する研究</p>			
<p>【審査課題の概要】 呼吸不全の進行に伴い気管切開術施行後に人工呼吸器を装着されている神経筋疾患患者は、一般的に自力で発声することが不可能である。その代替方法として文字盤、スピーキング・バルブ、意志伝達装置等があるが、呼吸器装着状態下に自力で発声できることが最良である事は論を待たない。 今回、株式会社ユー・ティー・エムが製造した「ATボイスアシスト」は、気管切開チューブの吸引チューブから声帯に酸素または空気を送ることにより、発声・会話することを可能とする装置（チューブ）である。本装置は現時点で販売承認を得ているが、実際に使用された患者数が少なく販売には至っていない。そこで、株式会社ユー・ティー・エムからの依頼を受けて、当院で診療中の気管切開・人工呼吸器装着中の神経筋疾患患者に本装置を装着し、その有効性について検証する。</p>			
審査結果	承認（令和4年3月16日）		